

第1回海上の森・県民参加の組織づくり準備会合会議録要旨

日時

平成15年12月13日(金) 午前10時から午後0時9分まで

場所

ウィルあいち1階セミナールーム1及び2

出席者

委員

伊藤良吉委員、大竹勝委員、加藤倫教委員、木村光伸委員、鈴木敏明委員、
千頭聡委員、馬宮孝好委員、水野一男委員、山田治義委員、
伊藤 誠委員代理(鈴木節男委員欠席につき代理出席)

幹事

愛知県環境部環境政策課 企画グループ 主幹 林清比古
愛知県自然環境課 自然公園グループ 課長補佐 近藤則和
愛知県農林水産部林務課 県有林グループ 主幹 森 義男
愛知県森林保全課 緑化・整備推進グループ 主幹 桑島孝充
愛知県国際博推進局事業調整 課環境調整グループ 主幹 手塚 守

・開会

1 あいさつ(愛知県国際博推進局山中局長)

2 開催要領及び会議の進め方の説明

事務局

・資料1「海上の森・県民参加の組織づくり準備会合開催要領」及び資料2「会議の進め方について」について説明。

3 委員・幹事紹介

各委員

・名簿順に各自自己紹介。

事務局

・幹事を紹介。

4 座長の選出

事務局

・委員の間から木村委員の推薦があり、拍手を以て御賛同いただいたため、本準備会合の座長は木村委員に決定した。

5 座長あいさつ（木村座長）

事務局

・木村座長より座長代理として馬宮委員の推薦があり、馬宮委員に御承認いただいたため、本準備会合の座長代理は馬宮委員に決定した。

6 議事

（1）里山学びと交流の森づくりの説明

事務局

・資料3「里山学びと交流の森検討会報告書（概要）」、資料4「里山学びと交流の森づくりの取組」、資料5「里山学びと交流の森スケジュール（案）」及び資料6「海上の森における活動等の現況」について説明。

委員

・海上の森において自然観察や野鳥観察をしている団体などを把握しておくことは大変重要であり、その方法を考える必要がある。

座長

・実際に県民を挙げて活動を始めようとする段階にあるので、意見を異にするという理由で排除しない、ということは大原則であろう。

・自発的な入林登録、山岳登山入山届けのような届出システムのようなものがあると、安全対策といつ頃どんな方がどれだけお越しになっているのかを把握する意味から良いと思う。

委員

・パイロット事業などの県の事業において、どんな成果が出ているか、参加された方がどのような方で、その後どのような動きにつながりつつあるのか、教えていただきたい。

事務局

・国際博推進局で平成13年度及び14年度に実施したパイロット事業は、単発的に参加者を募集し、農作業体験や里山体験をしていただいた。

・平成15年度に実施した里づくり・森づくり事業は、体験事業の他に、将来のスタッフ養成の目的で里山学校を6回開催した。参加者の方にもそういう意識を持っていただけたが、具体的な活動へはまだつながっていない。今後、会が設置されたときに参加を呼び掛ける下地はできたと思う。

幹事

- ・森林保全課の県民参加の森づくり事業については、初心者コースと経験者コースがあり、初心者コース終了後引き続きやっていただける方に経験者コースに御参加いただいている。
- ・今年度は、もっと取り組みたいという方の希望もあり、さらに自発的に取り組んでいただくサポートコースを設けた。将来、森づくりの会が設置されれば、その中核において同様に取り組んでいきたいと考えている。

委員

- ・「海上の森」、「ふれあいの森」、「里山学びと交流の森」と、いろんな名称が使われてきたが、きちんと統一していく必要がある。
- ・「海上の森」というのはどこまでなのか漠然としているので、明確にしておいた方がいい

事務局

- ・「ふれあいの森」は、今は機能してない。そのかわりに「里山学びと交流の森づくり」として、県としての取組を打ち出した。
- ・「海上の森」の範囲について、540haの博覧会会場のうち、南西部の民有地を除いた約530haの地名として、「海上の森」と呼ばせていただく。そこでの県が取組を行う区域について「里山学びと交流の森」という名前にしている。

委員

- ・恒久施設がある地区は海上町ではないので、今後の論議の中で深めていく必要があると思う。
- ・自分自身は、万博開催後にこの地域を長い目で見ていくための組織づくりを検討するのだろう、と思って本日の会合に出席したが、万博開催中にこの組織が何らかの活動をするため、組織づくりがかなり急がれているということを知った。万博とどのように関わる組織なのか、若しくは関わらない組織なのかということもきちんと論議を進めていただきたい。

座長

- ・検討会の引き継ぎとして申し上げますと、万博終了後の地域づくりのための大きな組織づくりをしよう、というのが大前提だったと思う。だからといって万博と関与しないのではなく、集まりつつある人たちが万博にも何らかの形で関与ができないか、というのが重要なポイントだと思う。そういう意味では、万博前に完成した組織ができあがるのは問題なのかもしれない。
- ・検討会では、平成17年度の万博開催時に活動できる組織体を進行プロセスの中で位置づけていけば、その人たちが核になって大きな組織がきちんとできる、と考えていたつもりである。
- ・とりあえずということで小さな組織から始めると組織がいいかげんになるのではないかと、動きのみを先行させてしまうとその次につながっていかないのではないかと、ということで、県の方からしっかりした組織づくりのたたき台を提示したのだと思う。

委員

- ・この会で、瀬戸会場でインタープリテーションをしたい、という合意事項があるならば、博

覧会協会の主催事業である「自然体感プログラム」との摺り合わせを考えないと実現しにくいのではないかと。

座長

・博覧会協会から、コンタクトがないまま具体的な個別プログラムが突然示されるのが実態である。その摺り合わせは、平成16年度の前半で詰めておく必要があり、実際の組織化のときに重要なポイントになってくると思う。

・スケジュールについて、来年度早々に、会を活動体としてきちんと立ち上げたい。会の設立をスケジュールどおりに進めていかないと、万博のときにうまく機能しないので、この4回の会合で詰める必要があると思う。

・そのために、4回開催される会合の合間に、委員の皆様との連絡調整会やブレインストーミングのようなものを、会議室や海上で行う機会を何回か持ちたいと思う。

委員

・活動場所の設定のことについて、地域の生産活動のリズムとの整合性を意識する必要がある。例えば、ため池を1つ復元すれば、かなりの休耕田が水田として復活する。その復活が、環境の観点でも正当に評価でき、重要な意義を持つという認識も、今後論じていただければありがたい。

・私たちの立場として、自らが維持管理すること自体が、海上の山全体を維持するための重要な構成の部分成しているということも考える必要がある。

・組織の継続性について、どれほど最後まで責任が維持されるのか、という問題がある。この15年間新たに生まれる組織もたくさんあったが、いつの間にか消えていった組織もずいぶんある。

・県や、特に瀬戸市に関して言うと、維持管理の部門として、昔は農務係という独立組織があったが、今は行政の統合整理により規模が小さくなっている。しかし、その価値は非常に大きくなっており、環境的な観点から見直されて積極的に議論される時期がまたくると思う。そのときも、これらの活動と公的な活動の接点という意味で、行政も正しい位置や関係において連続的にやっていただきたい。

座長

・これは県が主催する森づくりであるが、地域的には瀬戸市であり、瀬戸市はどのように関わりどのような態度で臨むのか、ということがいつも問われていた。今回の会合は、市の責任において幹事ではなくて委員として御参加いただいております、今後いろいろな議論を委員として交わさせていただきたい。ここでの発言をもって「瀬戸市はこう言ったではないか」というような責任追求の仕方をしないという前提で、他の委員の熱意を絡めた自由討議ができればいいと思う。

・瀬戸市の組織については、自然・緑・公園といった空間を系統的に考える部署がなく、農林関係は小規模な組織が別にある。それらをぜひとも一元化をし地域整備の実態に合った組織づ

くりをしてください、ということ、昨年の6月頃に個人名の文書により公に市長に申入れをさせていただいた。

・昨日の都市計画審議会において、県が作成する都市計画のマスタープランについて市との意見調整があった。県から示された基本計画の中に、自然環境の保全整備というような大きな項目がポンと出てくる。瀬戸市の場合はそれを受けとめる部署がないので、あちこちの部署でその項目を見ているうちに一番大事なポイントが抜けてしまう、ということが起こりうる。

・かつて重要であったがだんだん小さくなってしまった部署もあるが、新たな価値観による見直しに対応して組織をつくっていただきたいと思う。

委員

・私どもの方も、その時々に応じて組織の再編成を行ってきた。国際博覧会を期に変わらなければならぬということ、市長自ら話しており、職員もいろいろ考えていると思われる。

・私たちが考える組織と、皆さんが考える組織が全く違う方向に進むことはないと思う。

座長

・県の方は幹事として出席しているが、決して答弁者としてではなく、県としての考え方、あるいは行政として森づくり・里づくりへの関わりも含めて、適宜御自由に発言していただきたい。多くの情報を共有するために、議論に参加していただいた方がいいと思う。

委員

・私もパイロット事業や県民参加の森づくり事業に参加した中で、今日傍聴席に来ていただいている方や何人かの方と知り合いになり、出会いがあったと思う。

・県の方針がやっと出てきた状態であり、それがまだ全部見えていないが、将来どこまでの方向を考えているのか、十分お聞きしたい。

・われわれはどこまで皆さんと一緒に活動ができるのか、ということがまだよく見えてこない。今までいろいろな形でボランティアで参加した方もそこがわからないから、真似事程度で終わってしまう。

・万博が終わったら力の入り具合が少しずつ抜けていき、将来置いてきぼりをくってしまうのが一番心配である。

・里山という定義があるのであれば、われわれは里人である。その中でもう一遍自分たちの生き方を再考したいと考えている。だから県の方針もしっかりしたものを出していただきたい。きちんとした継続する組織ができるように、皆さんの思いを共有できると良い。

座長

・検討会で心配されたのは、森づくりの会が設置されそれが独立して活動していくときの県の関わり方であり、責任を放棄して森づくりの会に押しつけるのではないか、ということであった。そうではなくて、いいパートナーシップを形成しよう、ということが確認されていた。

・恒久施設の維持管理や活動の資金の提供といった具体的なことは十分に詰められていないので、この組織づくりの中で議論をしていかなければならない、ということも確認された。

(2) 県民参加の組織づくりの検討項目について

座長

・資料7、資料2「1 準備会合の進め方」及び「3 検討スケジュール」をにらみながら議論をしたい。

事務局

・資料7「活動に関する事項」において、「博覧会開催時の活動」の下の「活動プログラム作成」と、「博覧会の取組」との連携を点線で表している。県としては、この会の博覧会開催時における活動は会場以外の場所での取組であるという位置づけをしており、会場内まで乗り込んでこの会が活動するというイメージではない。

座長

- ・そこはかなり重要なポイントなのかもしれない。博覧会開催時に海上の森を実際に見に来られる方へのおもてなしや御案内を、きちんと制度化する必要があるという気がする。
- ・しかし、それだけでいいのだろうか。県としてこの会と博覧会協会催事との具体的な協力を想定していないということと、博覧会において里山に関わる重大な展示が行われるにもかかわらず、この会合とは全く無縁でプログラムが進んでいるという、ずれた気持ちがいつも残る。
- ・検討項目のたたき台を県から示されたので、これについて意見交換をしていただきたい。

委員

- ・「ネットワーク」に関して、里人として考えると、国際的連携とか、大学・研究機関などの大きなところとの連携はどうやってするのか疑問に思う。
- ・実働部隊として里山活動をしていく県民参加の森づくりの組織が頭でっかちになってしまっただけで、果たして実際に機能するだろうか。あれこれ議論しても、実際にやろうと思ったらあまり人が来なかった、ということになりかねない。形はできたけれども、いざというときにどれだけ機能するか、というのが一番心配である。

委員

- ・里山学びと交流の森検討会の議論において、結局は、一般の方が参加して里山保全活動をしていくことが一番重要である、ということになった。
- ・今後、県民参加の組織をつくるための枠組みについてこの会合で議論し、この組織の枠組みをいかに早く立ち上げるか、ということが一番大切だと思う。
- ・この会合を4回経ただけで組織を立ち上げられるかどうか、非常に危惧している。結局、後で変更できる自由度を残した大まかな会の組織をつくるつもりで議論し、あまり細かいことは議論しなくてもいいのではないかと、思う。

委員

- ・この組織の活動がとても大事だと思う。

- ・山里に人がいなくなり人が住めなくなっているというのが問題であり、人がいて生活でき、新たな絶やさない文化を継承していける場を考えることが大事である。いろいろな活動グループの競技の場ではない。経済と文化を再びどのように構築するのか考えることが大事である。
- ・海上という特殊解から、国民挙げて里山との関わりをもう一度つくっていこうという一般解をここで情報発信していく、という活動を軸にすれば、どんな組織が必要なのか見えてくると思う。

委員

- ・この組織の最大の目的は何か。県として、ここでこれだけの組織をつくり、人づくりをしていくということは、この森だけをターゲットにしているわけではない、と思う。
- ・例えば「人材の確保・養成」について、この森の維持管理のみならず、県内のいろいろな里山で維持管理や生業の再生をする中核的な人間をつくる、という意味合いも入っているのではないか。
- ・それぞれの地域のリーダーを育成する、里山保全の仕組みをより広めていくためのインキュベーション的なことができる組織づくりをする、という視点が大切だと思う。

座長

- ・大変重要な視点の御指摘をいただいたと思う。検討会ではその部分が大事であるという認識はあったが、きちんと議論されていない。これは課題としてぜひ取り上げる必要があると思う。

委員

- ・里山はそれぞれ地域特性が違うと思うので、個別に考える必要がある問題がたくさんあると思う。
- ・特に海上の活動として、「古民家再生プロジェクト」というボランティアの団体が壊される予定だった家を分解し、今、その建材を保管しており、来年度に緊急に再建をする必要がある。組織づくりの中で、これを早めに協議していただきたい。

座長

- ・組織については、県民にどのように集まってもらいどのように活動主体になっていただくか、会員の役割や募集の仕方が一番重要である。
- ・これを決める手だてとして、県や市との関わり、資金、事務局、人を集めるための趣意書などについて考えなければならない。これらの問題点を解決するために、実際に人集めをするための知恵について議論したい。そして、その知恵は活動と直結する、という形のイメージを描けばよいと思う。

委員

- ・この組織に関する事項の中で一番最初に考えなければいけないのは、どのような構成でこの会をつくるか、どのような活動をする人たちをターゲットにするのか、どのような活動をしていく人をここに集めるのか、ということである。

座長

- ・メンバーをここで確定してしまうより、もう少し広く意見を聞く機会を持った方が良いのかもしれない。
- ・国際博推進局の主催で開催された「里山学校」において講師を担当した際にワークショップを行い、参加者の皆さんに海上に対するイメージ、あるいはこれから海上はこうなるといい、というイメージを語り合っていたいただき、その後、それに対して自分だったらどのように関わるか話し合っていた。そういうようなものもここへデータとして提供すれば良い。
- ・この会合の中だけではなく、そういうものや外部からの意見も踏まえて、会の構成をどうしていくかを少し広く考えた方が良い。

委員

- ・既成団体のみならず広い外部の意見を含めていく枠組みを決めるために、その意見をどのような形で情報収集をするか、ということが重要になると思う。

座長

- ・冒頭で御質問があった活動団体の把握ということと、かなり連動しているのではないかと。
- ・全体の体制をスリムにすることが必要であり、形はできたけれども動かない、組織はできたけれども人がいない、頭でっかちでどうにもならない、ということがないように、しっかりと体制づくりをしなければいけないという御発言があった。
- ・いかに組織を迅速に立ち上げていくかが重要であり、そのためにこの組織、活動、ネットワークの中で重要なポイントはどこか明確にしてそこを重点的に議論しよう、という御発言があった。
- ・現実の経済社会とマッチングさせながら里山文化を継承していくことが大事であり、「人はいないけれども里はつくらなければ」という話をしては仕方がない、という御意見があった。
- ・海上という個別解が、県民参加・県民活動という一般的なステージとうまく結合できるような組織づくりが必要である、という御指摘もいただいた。
- ・活動に関して、人材を確保することのみならず、集まってきた人材を地域リーダーとして育成していくプロセスも大切であり、外部への発信機能も有する必要がある、という御発言があった。
- ・会の構成についてきちんとするための手掛かりを得る必要がある、という御発言があった。
- ・早急に着手する必要がある活動が幾つかあり、その活動と組織の関係をきちんと議論しよう、という御意見があった。
- ・これらの問題点を整理して、検討の順序を明確にする必要がある。事務局と私で相談しながら順序づくりをして、早く委員の皆様のお手元に届けたいと思う。

傍聴者

- ・私は去年からパイロット事業に参加しており、里山の保全是非常に重要であると感じている。
- ・海上の里の地区の私有地を御好意によりお借りして、今年から知り合いを集めて水田耕作を

始めた。合計33回、延べ400人/日ぐらいの工数がかかったが、米1俵以上収穫でき、多少里山の景観にも寄与できたと思う。

- ・この活動には3つのコンセプトを置いた。1つ目は自主性を尊重するために「Plan・Do・See」を考えた。2つ目は、参加者のそれぞれの得意技を利用して役割分担を決めることにより、全員が自意識を持って参加することを考えた。3つ目は、人の和を大切にするためにメールやホームページを活用し、自由に発言できる場をつくった。

- ・この会に対するお願いとして、このような一般市民が活動する場や環境を提供してほしい。里山を維持していくために、ため池や水路などの全体環境の整備が必要である。

- ・2つ目に、子どもたちに対する環境教育のやり方に対する理論的な裏付けやガイドラインのようなもの、あるいは里山を維持するための文化と維持の方法に係る理論的な裏付けを教えてください。

- ・参加者が増えたのは、自分たちのライフスタイルに対する感動があったからだと思う。この会が、このように市民が活躍できる場所へ道を開くようにお願いしたい。

座長

- ・自分の得意技をそれぞれ発揮できることは、みんなのためにもなり、本人の喜びにもなるので、とても大切である。

- ・里山が衰退して滅びつつあるのを何とかしなければいけないという使命感では長続きしない。取り組むと楽しい、自分たちにも喜びがあるということが大きな動機の一部になると思う。

委員

- ・海上の森はほとんどが県有地であり、そこで県民が参加して里山活動をやろうとしても、何事も許可されない。

- ・自主的な活動、楽しい活動、いろいろなアイデアを含んだ活動を行うためには、県から土地を借りなければいけない。そのためには行政が関係した組織が必要であり、万博の問題だけではなくここで市民活動をするためにも、その組織を立ち上げることが緊急に求められている。

座長

- ・例えば、水田耕作について食管法の規制が除外されるとか、科学的裏付けがあれば森林の伐採や砂防的な作業が認められるなど、県民参加による環境特区のような形で里山づくりができないだろうかと思う。そういうことも考えれば、会と県の関係もうまく乗り越えられると思う。

(3) 県民参加の組織づくりの枠組みについて

委員

- ・資料8の活動部会というところに、動植物部会、野鳥部会、里山部会、森林部会、文化歴史部会と、例示として挙げられている。しかし、里山はそのように切り分けられないところが大事だと思う。

・この組織を、会社みたいにたくさんの課、部、係があるというイメージにするのか、それとももう少し緩やかなネットワークのようにするのか、議論しておいた方がいいと思う。

座長

・検討会においても、委員から「里山というのはそんなふうには切ってはいけない。自然の部分と文化の部分も切ってはいけない。」と御発言があった。

・ただし、今後、森づくりの会が設置されたときに、「野鳥だけ見たい」、「花だけ見たい」という方の自由な活動も保障しなければいけない。そういう方々の思惑だけで会全体を動かさないというところをきちんと抑えれば、組織の中で緩やかな部会やグループがたくさんできていくと思う。

・部会やグループをつくと、全体会合にはその代表者が出席するのか、代表者の意見はその会を本当に代表しているのか、といった問題もあると思う。御指摘いただいたことについて、次回からの会合で議論する必要がある。

委員

・スケジュールどおりに会が立ち上がるのかどうか、非常に心配である。

・会の名称や規約のたたき台を出してそれを修正する、という方法をとった方が、早く立ち上がるのではないか。

・万博の数か月前に立ち上がった会が、万博の始まる前に事業をやるために委託費の助成を受けることが可能なのだろうか。

事務局

・検討は一気呵成に全体の枠組みから規約まで進めていきたい。次回は具体的なものをお示ししたい。

委員

・来年4月1日からの海上の森の管轄機関が農林水産部になるが、海上の森には自然環境に係した要素も多くある。環境部は今後どのように関わっていくのか。

幹事

・環境教育推進法の施行に伴い、県は来年度中にいろいろな方々の御意見をいただきながら環境教育の推進に向けての計画づくりに取り組む予定である。そういう要素をこの会の中に意識しながら、計画づくりをしていく。

・環境部はエコカレッジや自然保護に係る人材育成などの事業を実施している。こういう人材が万博やこの会のインタープリターなどになり、活動プログラムの参加、検討、あるいは活動をしていくと思っている。

座長

・今日の3つの議事、里山学びと交流の森づくりの理解において、踏み込んだ話し合いができ

たと思う。

- ・ 1点目の問題として、「海上」とはどこなのか、私有地や休耕田についてどう考えるか、博覧会との絡みでいつどういう形でこの会を立ち上げていくか、行政との関係をどうするか、ということが出ている。

- ・ 2点目として、どこから手をつけていくのかきちんと考えよう、ということがいろいろな角度から指摘されたと思う。組織づくりの枠組みについても、弾力的にやるしかないと思うが、これからの県の担当セクションも含めてきちんと対応する必要がある。

- ・ 今日の議論を受けてたたき台をつくり、それを委員の皆さんに次回の会合までにお読みいただき、会合で検討していただく、ということを繰り返したい。それで時間が足らなければ、会合の間にワークショップを行いたい。

事務局

- ・ 次回の開催は来年2月の予定。

- ・ これをもちまして、第1回「海上の森・県民参加の組織づくり準備会合」を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

- ・ 閉会